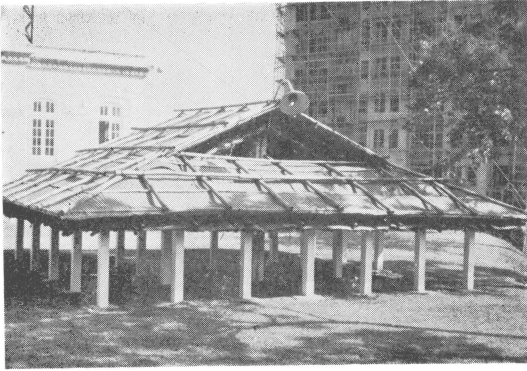
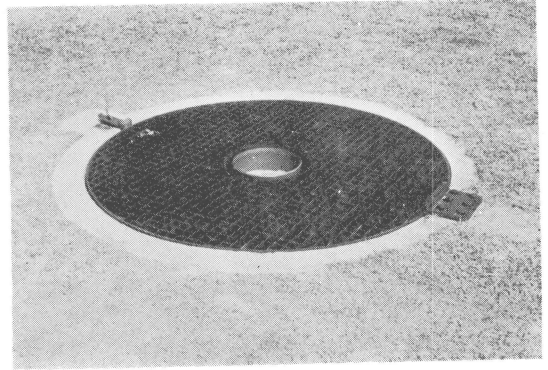


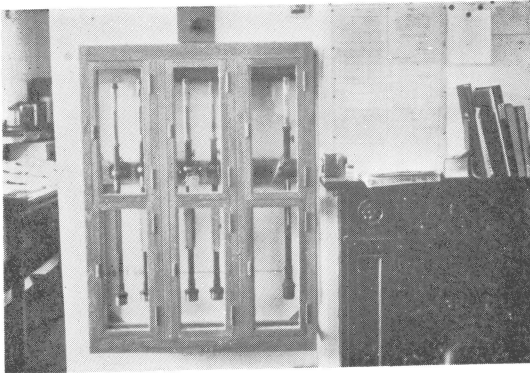
香港気象台の測器



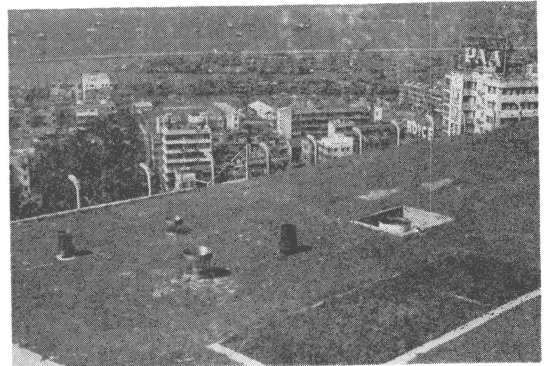
あづまや式の百葉箱



風の影響を防いだ雨量計



ステーション型水銀気圧計、左端が正規のもの



丘の上にある高層分室の露場。蒸発、雨量、放射線採取の各装置



露場の一部、各種の雨量計がある

昭和37年2月に香港に立寄る機会があったので、気象台長のワット氏に挨拶をし、観測担当のシャム氏の案内で所内を見学した。

あづまや式の百葉箱一内部には乾湿計、最高最低温度計、鋼管に水銀をつめたネグレッチ式の隔測乾湿計が置いてある。香港のような亜熱帯地方ではこの百葉箱は旨

い方法である。

ステーション型水銀気圧計一事務室の一隅で、箱に納めてある。フォルタンを用いている吾々から見れば、いかにもお粗末な感じがするが、これで利用上差支なしと割切っているのであろう。

露場の一部一手前に口径の違う雨量計が2つあり、その向うに風の影響をなくするように工夫された雨量計がある。うしろの白い建物は台長の官舎である。

風の影響を防いだ雨量計一前の写真の一部を近くから撮つたもの。鉄盤の蜂の巣状のあみの中央に受水口がある。いづれも地面と同じ高さである。

高層分室の露場一本所から自動車で10分ばかりの小高い丘の上の分室である。右手前の矩形にしきった芝生は、蒸発散を測る場所で、測定部は地下室になっている。4本足で支えた金だらいは放射性降下物採取器である。上方に九龍の港が見える。

(大田正次)